

---

---

## 奉行クラウドの「新元号対応」に伴う 汎用データ受入形式 の変更点

---

---

奉行クラウドの「新元号」対応に伴う、変更点をご説明します。

- 製品上の対応
- 汎用データ受入（社員・伝票など）に関連する、お客様・パートナー様の対応

---

### 【製品上の対応】

---

2019年5月1日以後は、新元号の日付で運用します。

「1：明治」～「4：平成」の後に、「5」に新元号が追加されます。

	<u>元号</u>	<u>イニシャル</u>	<u>開始日付（改元日）</u>	
1	明治	M	1868/09/08	
2	大正	T	1912/07/30	
3	昭和	S	1926/12/25	
4	平成	H	1989/01/08	
5	●●	▲	2019/05/01	← 新元号追加

※ 以後、イニシャル「▲」は「K」で例示

- 日付の暦表示「西暦」「和暦」は、[運用設定]メニューで設定します。  
※ 「西暦」で運用している場合は、一部（申告書・申請書・金融機関連携など）を除き改元の影響は受けません。
- 画面表示や印刷・転送・汎用データ作成では、暦表示の設定にしたがい日付を出力します。  
和暦の場合は、改元日（2019年5月1日）以後は新元号で出力します。
- 和暦日付の入力エディットでは、入力月にしたがって元号の表示が切り替わります。  
※ 4月を入力時は「平成」、5月は新元号に表示が切り替わります。
- 汎用データ受入の「日付」項目は、[運用設定]メニューの暦表示設定に関係なく、日付の書式にしたがい受け入れられます。

#### 和暦の形式

平成31年04月01日  
H31/04/01  
H31.04.01  
H31-04-01

#### 西暦の形式

2019年04月01日  
2019/04/01  
2019.04.01  
2019-04-01

和暦形式の日付は、改元日（2019年5月1日）以後は新元号の日付で受け入れができます。

例) 「**K01**/05/01」

なお、改元日（2019年5月1日）以後でも、「平成」の日付で受け入れができます。

例) 「**H31**/05/01」も受入可 ※西暦「2019/05/01」として適切に認識します

- 各省庁所管の申告書や申請書の様式等や金融機関への提出書類については、発表され次第対応します。

---

## 【 汎用データ受入（社員・伝票など）に関連する、お客様・パートナー様の対応 】

---

社員や伝票データなどの汎用データ受入で、「日付」項目の影響を説明します。

### 《お客様・パートナー様の対応》

- 「西暦形式の日付」を設定している場合には、今までのまま**変更の必要はありません。**
- 「和暦形式の日付」を設定している場合には、改元日（2019年5月1日）以後は**新元号に変更**  
**します。**

例) 2019年4月1日 → 「H31/04/01」

2019年5月1日 → 「**K01**/05/01」

#### (参考)

改元日（2019年5月1日）以後でも、「平成」の日付で受け入れができます。（例：H31/05/01）  
そのため、新元号の日付に変更が間にあわない場合でも、今までの汎用データで正しく受け入れができます。